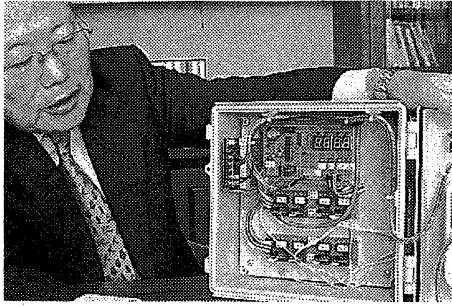


冷凍機フロン漏れ検知

ナンバがシステム 最大32台対応

【長岡】冷凍設備の設計・施工を手掛けるナン



早期発見で設備の運転に支障が出る前に対応できる

バ(新潟県長岡市、難波昇一社長)は、スーパーなどの冷凍設備の冷媒として使うフロンガスの微量な漏れを検知できるシステムを開発した。早期発見により設備の運転に支障が出る前に対応できる。地球温暖化への影響が懸念されるフロンガスの漏洩を防ぐシステムとして普及させたい考えだ。

開発したのは、代替フロンを含むフロンガス漏

洩検知システムの「フロンキーパー」。1日数回ある屋内冷却器の霜取り時間を利用し、液体状態になっている冷媒の液面の高さを測定する。

液面が下がると電話回線で自動的に警報がナンバに送られて対処できる。テストでは冷媒タンクの液面が約2ミリ以下があれば警報を出せることを確かめた。フロンキーパーは、1台の制御盤で最大32台の冷凍機に対応で

きる。制御盤の本体価格は約63万円(税別)。

ナンバの2011年10月期の売上高は約14億円。

ハイドロフルオロカーボン(HFC)などの代替フロンは、オゾン層を破壊するフロンガスに代わる冷媒として使われている。だが、二酸化炭素(CO₂)の数千倍の温暖化効果があるとされ、排出抑制が求められている。